

導入校

熊本県立 熊本高等学校



県内トップの進学実績を誇る 熊本高校のコロナ禍の学びを ThinkBoardで保障

オンライン学習で他校を牽引

熊本県立熊本高等学校(以下、熊本高校)は、熊本県トップの進学校としてその名が知られている。その熊本高校の学びの環境が、大きく変化したのが2020年春。新型コロナウイルス感染拡大に伴う全国一斉の臨時休校により、生徒たちは登校しての学びがなくなった。そこで熊本高校では、生徒たちの学びを継続するため、オンライン授業への取り組みをスタートさせた。

熊本高校でオンライン授業への検討をスタートしたのは2020年4月1日のこと。翌2日から休校が始まるため、早急なシステム導入が求められていた。そこで選択したのが、

声と手書きで簡単にeラーニング用コンテンツを制作できるソフトウェア「ThinkBoard Contents Creator(シンクボード・コンテンツクリエイター)」(以下、ThinkBoard)だ。熊本高校 越猪浩樹校長(当時)は、「県内トップの進学校として他校を牽引していくためにも、迅速にオンライン授業の整備を進めていく必要がありました。ThinkBoardは教員自身が簡単にオリジナル動画コンテンツを制作できるため、生徒の学習進度や理解に応じた最適な教材で学べる点に大きな魅力を感じました」と選定のポイントを語る。

教員の授業力向上へ

ThinkBoardをオンライン授業のコンテンツ制作ツールとして提案した同校の森本健二副校長は「以前勤めていた熊本県立教育センターにおいて、ThinkBoardを活用した実証を実施していました。そこでThinkBoardのオリジナリティと動作の軽快さを知っていたため、今回のオンライン授業のコンテンツ制作に最適であると判断しました」と語る。

ThinkBoardで制作したコンテンツは、従来の動画コンテンツと比較してデータ容量が軽く、5分間の動画でも2MB程度だ。家庭によってはネットワーク環境が十分整備されていない生徒もいる中で、回線に負担をかけず学べる動画コンテンツの制作が求められていた。そうした動画教材の制作ツールに、ThinkBoardは最適だったのだ。これらの理由から、4月6日には全教員分のThinkBoardラ



熊本県立熊本高等学校
副校長
森本健二 氏

イセンスを取得し、同月14日には動画コンテンツの配信をスタートさせるなど、非常に迅速にオンライン授業環境を構築し、休校期間中でも生徒の学びを止めない仕組みを整えた。休校期間中には多くの動画コンテンツが制作され、休校が解除された後も反転授業などで活用されている。

越猪校長は「熊本県では2021年4月から順次Chromebookを導入し生徒1人1台の端末環境を整えます。そうした1人1台の環境の中では、ThinkBoardで制作した動画コンテンツの価値はさらに向上していくでしょう。ThinkBoardのコンテンツは、生徒の学びのためにも有効ですが、教員がコンテンツを修正・再利用することで教員の授業力の向上につながる点が、非常に重要であると考えています。本校でThinkBoardのコンテンツを制作した教員が、熊本県内の高等学校に活用を広げていくことで、ThinkBoardのスーパーティーチャーのような存在になっていければ嬉しいです」と笑顔を見せた。



熊本県立熊本高等学校
校長(当時)
越猪浩樹 氏

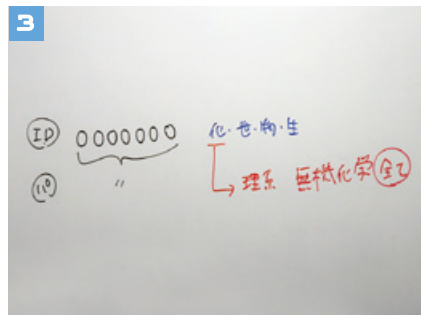
3年生の教材を2年生の予習用教材に活用

オンライン授業の教材として制作されたThinkBoardのコンテンツは、休校が解除された現在も授業で積極的に活用されている。授業の予習に使ったり、授業中にこれまでの内容を振り返ったりと、その活用は実に多彩だ。今回は化学の授業において、授業に入る前の事前学習としてThinkBoardを利用している様子を見せてもらった。



POINT

授業のはじめにThinkBoardコンテンツで知識習得



1 2年生化学の授業のスタートはThinkBoardのコンテンツからの知識習得。もともと3年生用に制作された無機化学の動画を視聴し、授業での学びに生かす。

2 生徒たちはコンピューター室にある1人1台の端末環境でThinkBoardのコンテンツを視聴する。取材時点では、普通教室へのネットワーク環境整備や端末整備はされていないが、2021年度からスタートする1人1台の端末環境と普通教室へのネットワーク環境整備を活用すれば、普通教室でも同様の学びが可能になる。

3 コンテンツ視聴は生徒の自主性に任せ、ログイン方法と視聴する分野を示すにとどめる。



POINT

動画+音声でわかりやすく学ぶ



4 ThinkBoard専用のeラーニングシステム「ThinkBoard LMS」を活用し、コンテンツを視聴する。単元ごとに分けられており、生徒は迷うことなく目的のコンテンツを再生している。

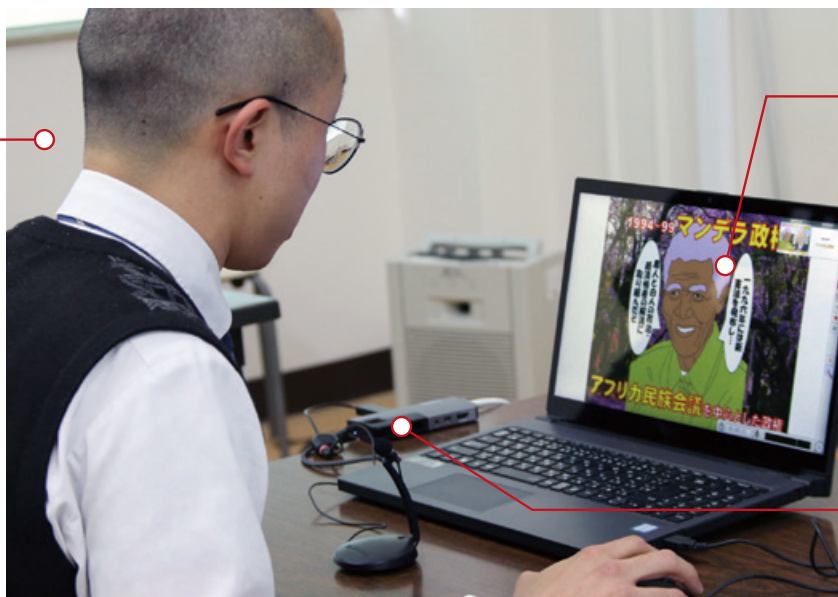
5 ThinkBoardで制作した教材は、教員たちが手書きで重要ポイントに赤線を引いたり、イラストを組み込んだりしてわかりやすい。

6 生徒によっては教科書も取り出し、ThinkBoardの動画コンテンツを視聴しながら、教科書の理解を深めている。

生徒が楽しんで学べる動画教材づくり

ThinkBoardを活用した動画教材の制作を、熊本高校の教員はどのように行っているのだろうか。熊本高校で世界史を担当する松下祐樹教諭にその使い勝手をインタビュー。実際にThinkBoardによる動画教材制作を見せてもらった。

松下教諭によるThinkBoardのコンテンツ制作



パワーポイントに表示されるイラストは、なんと松下教諭のオリジナル。テキスト情報だけでなくイラストを掲載し、楽しく視聴できるコンテンツを制作している。

ノイズ低減のため、USB接続のマイクを使用して音声を収録している。ただ教材を読み上げるのではなく、動画配信サイトのコンテンツのように楽しく勢いのある声で収録している。

音声収録は画面操作や手書きと同時にできるほか、職員室で画面操作や手書きだけを収録し、後から別の場所で音声だけを収録することも可能だ。松下教諭は、周囲の音声を気にする必要のない自宅で音声収録を行うという。

ThinkBoardに読み込んだPowerPointファイルを操作しながら音声収録を行う松下教諭



POINT

単なる暗記ではなく、歴史で大切な因果関係を理解する



7 ThinkBoardで作成した動画コンテンツは、予習・復習時に使われる。「自宅では今まで暗記しかできなかった勉強が、説明動画を見せることで、歴史で一番大切な因果関係を押さえて学べるようになったと感じています」と松下教諭。動画はトピック別に5分以下になるよう工夫され、すでに600本近く制作されている。松下教諭は「吹き込み音声を間違えたときでも、ThinkBoardの修正機能を使えば、わざわざ録音し直さなくてもよいので非常に便利です」と話した。



8 オンライン授業では、生徒の理解度を測るため、「Microsoft Forms」を活用し、アンケートや選択式テストも実施した。

9 簡単にWebサイトを制作できる「Google サイト」を利用し、世界史のThinkBoardコンテンツや課題のPDFなどを格納している。今後は順次「ThinkBoard LMS」に移行する予定だ。



授業を10分に再構成

ThinkBoardを活用し、休校期間中に100を超える動画コンテンツを制作した同校の化学科 入江泰生教諭は、ThinkBoardを活用して動画コンテンツを制作したことにより、授業構成に対する意識が変化したと話す。

「ThinkBoardでは、10分以下で動画を作ることを意識しました。長い動画では生徒たちが飽きてしまうためです。対面の授業であれば適宜授業構成の修正が可能です。動画では生徒の反応を想定しながら、短時間での授業構成をしなくてはなりません。ある意味では授業構成を念入りに考えられたため、非常に内容の濃い動画コンテンツに仕上がりました」と入江教諭は振り返る。

化学科では、直感的にホームページを制作できる「Google サイト」を活用し、専用のWebサイトを構築している。このGoogle サイト上に、ThinkBoardで制作した動画コンテンツを公開しており、生徒はリンクをクリックして好きな動画で学習を継続できる仕組みだ。

動画は反転学習にも活用

入江教諭は「教材を動画で配信できることは、教員にとっても大きなメリットがあります。

制作した動画コンテンツを反転学習に活用し 限られた授業時間でより能動的な学びへ

例えば新しい単元に入る際に、あらかじめThinkBoardで制作した動画コンテンツを視聴しておけば、スムーズに授業の内容を理解できます。休校期間解除後は授業の予習や復習といった反転学習用のコンテンツとして、便利に活用しています」と語る。

「動画で基礎的な知識をあらかじめ学べることで、学校では生徒からの発問などリアルなやりとりにも集中できます。今後模擬テストの解説などの動画コンテンツがさらに拡充していけば、生徒たちが塾に通わなくても学校から配信している動画だけで学ぶことができ、教育の平等化も実現できると考えています。化学科ではそれぞれの教員が制作した動画コンテンツを全てGoogle サイト上にまとめていつでも見られるようにしています」

チームとして教材を共有

「これまでは、教員同士で教材を共有することがあまりできていませんでした。それぞれが独自の教材を持っており、“これは自分のもの”という意識が強かったと思います。しかし

コロナ禍での動画教材の制作をきっかけに、3人の教員がそれぞれ分担して制作するようになりました。お互いに意見交換もでき、さらにいい教材にしていける。これからはチームとして制作に取り組んでいくという意識が必要だと考えています」と、同じく化学科の早野仁朗教諭は語った。

熊本高校ではThinkBoardと連携するeラーニング用学習管理システム「ThinkBoard LMS」も2020年8月から試用しており、2021年度から正式運用をスタートする。コンテンツ制作のみならず生徒一人ひとりの学習進捗を管理していくことで、熊本高校の生徒たちの学びをさらに充実させていく。



熊本県立熊本高等学校
化学科 教諭
入江泰生 氏(写真左) 早野仁朗 氏(写真右)

ThinkBoard® Contents Creator

取材協力



熊本県立 熊本高等学校 <https://sh.higo.ed.jp/kumamoto/>

1900年(明治33年)4月、熊本県中学済々黌から分離開校した第二済々黌を前身として開校。同年12月、熊本県熊本中学校と改称し、1948(昭和23)年4月に熊本県立熊本高等学校となる。熊本県随一の進学率を誇る進学校。建学の精神として、学問に通じ徳の高い人物を示す「士君子」を掲げ、徳性、智能、体力ともに優れた人物を養成することを教育の方針としている。

3人の教員がそれぞれ分担して制作するようになりました。お互いに意見交換もでき、さらにいい教材にしていける。これからはチームとして制作に取り組んでいくという意識が必要だと考えています

総販売元

Zetta

ゼッタリンクス株式会社
www.zettalinx.co.jp

<東京本社> 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-14-4KYビル5階/6階

Tel.03-5615-3761 Fax.03-5615-3762

<大阪営業所> 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-18-9 新大阪日大ビル5階 501号

Tel.06-6195-3901 Fax.06-6195-3902

<福岡オフィス> 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-22 センチュリー赤坂門ビル6階 B-4号室

Tel.092-707-0356 Fax.092-707-0357

<仙台オフィス> 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2丁目7-30 角川ビル215

(株式会社データベーステクノロジー内)

Tel.022-349-5659

開発元

kjs

株式会社 教育情報サービス

お問い合わせは

●記載されている法人名、団体名および商品名などは、商標または登録商標です。この事例紹介の内容は2021年4月現在のものです。●ThinkBoard各製品の仕様は予告なく変更する場合があります。最新情報はWEBサイトをご確認いただくか、事前にお問い合わせ下さい。●この事例紹介で使用している画像や写真には開発中および一部加工を加えたものを含まれます。